

## 平成 30 年度医療事業部 第 1 回研修会(報告)

主 催 (公社) 熊本県栄養士会 医療事業部

日 時 平成 30 年 4 月 28 日 10:00~16:10

会 場 名 熊本市医師会館

### ◇『栄養士との関わりにより改善した糖尿病症例とその病態』

講師:熊本大学大学院生命科学研究部 代謝内科学 糖尿病分子病態解析学

特任准教授 本島 寛之 先生

糖尿病の治療目的から合併症、血糖スパイク、経口血糖降下薬の選択など幅広くお話頂きました。熊本県において推進されている糖尿病対策では、ブルーサークルメニューは熊本地震の影響で提供を中断せざるをえない店舗もあり、新たなメニューの開発も継続して協力して頂きたいとのことでした。同じく対策のひとつである糖尿病性腎症重症化予防プログラム熊本県版の作製と推進についてもお話がありました。腎症重症化阻止にとって最も重要なのは「早期診断」ですが、熊本県では尿アルブミン値の測定件数が少ないのが現状とのことでした。また、糖尿病治療の基本は、食事療法が 7 割、運動療法が 3 割、薬物療法が 1 割ですべての症例、すべての時期を通して「食事療法が最も重要！」と説明されました。個人指導のいくつかの場面を提示され、患者さんとのやりとりから得られなかった情報を引き出すためにも、栄養士は面接で名探偵になって主治医にも言えない患者の問題点や本当に必要なアドバイスを行ってほしいと話されました。面接スキルの向上、対象者との信頼関係と改善行動への意欲を高めていくことが重要であり、栄養士のおける役割は大きいと改めて感じた内容でした。



【本島寛之先生】



### ◇『訪問診療について』

講師:清藤クリニック院長 清藤 千景 先生

### ◇『地域ケア会議について』

講師:在宅支援研究会てととココロ代表 清藤 千景 先生

最初に先生自身が司会進行も兼ねられ自己紹介とクリニックの紹介をされました。2012 年『清藤クリニック』を開業され午後からは 24 時間 365 日訪問診療に携われておられました。チームで支える在宅医療を目指され、近隣の開業医の先生方とも ICT で情報共有をしながら多職種と連携して、患者さんに寄りそう診療に取り組まれていました。また、地域の方々に住み慣れた自宅で自分らしく安心して暮らせるお手伝いをする、在宅支援研究会「てととココロ」のご紹介もありました。次にまえだクリニックの前田淳子先生

も参加され、主治医、患者、患者家族、栄養士、訪問看護ステーション看護師、担当ケアマネージャーなど多職種による退院前のカンファレンスの様子を寸劇で見せて頂きました。退院に向けての課題や自宅での生活をささえる体制、栄養士が地域へ出ていくためにはどうしたらよいかの質問に対してグループディスカッションがあり発表をしました。福祉事業部合同の研修会のため、実際福祉に携わっている参加者と活発な意見を出し合いながらのグループワークでした。最後に清藤先生から、栄養士は地域に出て欲しい、そのためには連携会議など積極的な参加を望んでいるとお話されました。今後高齢化に伴い在宅にいる方が増えており、チームで支援する在宅医療の必要性を学ぶことが出来ました。



【清藤千景先生】



【寸劇の様子】



【グループワーク】

今回は医療事業部と福祉事業部合同の研修会で210名の参加がありました。講義に加えて寸劇、グループワークと大変有意義な研修内容でした。講師の本島先生、清藤先生、ありがとうございました。

## ◇事務連絡等

平成 29 年度事業報告、平成 30 年度事業計画(案)

講義終了後は、医療事業部の事業報告及び事業計画(案)のお話がありました。今年度は役員交代の時期でした。医療事業部の事業部長も柿村葉子先生から椿裕子先生へ交代となりました。椿部長、引き続き副部長となられた柿村先生をはじめ役員は、会員の皆様のご協力のもと、本会の運営がよりよいものになるよう努力していきます。今後とも宜しくお願い致します。